

埼玉掃除に学ぶ会・埼玉便教会主催 第8回「被災地に学ぶ会」のご報告

- 日時 平成24年11月23日(金)
- 活動場所 福島県南相馬市
- 天気 曇りのち雨 7℃-14℃
- 参加者 44名 (男性34名・女性10名)
(中学生18名・教員17名・一般9名)

○日程

- 1:00 八潮高校出発
- 6:00 南相馬市着・沿岸部被災地域視察
- 7:00 南相馬市 VC 着・受付・センター長講話
- 10:00 現場着・作業開始
- 15:00 作業終了・被災者講話
- 16:00 南相馬市 VC 発
- 22:00 八潮高校着・解散

○活動場所の放射線量

0.2 μ Sv/時 (※ボランティア活動時の許容値 2.5 μ Sv以下)



名物・松本センター長による講話

【見通しが見つからないということ】

午前10時。VCから渡された地図を頼りに現場付近に到着しました。1kmほど彼方に、かつて松林があったであろう海岸線が見通せます。つまり、ここから海までの一切の建築物は3.11以降消滅してしまったのです。依頼された作業内容は「畑の草刈り 5町歩」とありました。確かに現場付近に来ているのですが、辺りには破棄されたままの家や雑木林のようなものがあるだけで、作業現場が判然としません。探すこと10数分、「もしかして…」と思った3m以上の笹竹が密集した場所が、かつて畑であったという現場でした。どこからどこまでが現場かも分かりませんし、どこからどう手をつけていいかも分からない状況に一同、戸惑いを隠せませんでした。この「見通しが見つからない」という状況は、何か被災地であって示唆的でした。

【ゴールを追わず「今、目の前」を大切に】

まず、作業に先立って1分間の黙祷がありました。これはVCセンター長からの要請で、犠牲者への哀悼の意と、「都会にあった我々の心をここに取り戻す」意を込めて行われたものです。続いて全体ミーティングでは、「ただ刈ればいいのではなく、先の見通しが立たなくても心を込めて、キレイを広げていきましょう」と便教会流に作業させていただくことを確認しました。その上でグループ分けとリーダー決めをしました。13台の草刈機で笹竹を刈り倒すグループ、刈った笹竹を後方へ送るグループ、笹竹の切り口を地上低く剪定するグループ、レーキ等で笹竹を集積するグループに分かれて、まず1クールの作業を開始しました。



背丈を遙かに上回る笹竹と向かい合う



「草刈機部隊」が少しずつ前進する



随所に生える低木や茨も協力して刈る



把握できない現場全体 (before)



壁が消えて明るくなった現場 (after)



笹山で見通せない野原 (before)



笹山が消え見通しの良い野原 (after)

【一人ひとりの力と思いがひとつに】

笹竹は草刈機でも容易に刈り倒すことは出来ず、作業は難航しました。ただ、リーダーを中心にグループ同士が改善提案をしながら絶妙に連携し合ったため、チーム全体が生き物のように効率よく働き、予想以上に作業が捗りました。また、それぞれが「今自分が何をすべきか、何が出来るか」を主体的に考えて行動してくれたようで、現場に流れる空気がとても良かったです。昼食を挟んで4クール作業したところで、終了時刻となりました。9割方の笹竹は刈り倒せましたが、残念ながら、あとは次の有志にバトンを託すことになりました。

「出来る人が出来る時に出来る事をする」 福島には声を潜めて助けを待つ人たちがまだ大勢います。 また行きます。



依頼主様からの講話 (大津波は電線の高さに達した)



「第9回被災地に学ぶ会 in 南相馬」

2012.11.23 参加者 44名